QOL

Quality Of Life

QOL サポーター新潟

41

2016年9月1日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集

7月・8月・9月の計4日間にわたり「夏のオープンキャンパス」が開催されました。
県内外からたくさんの方々にご来場いただき、大盛況のイベントとなりました。

Index

■ 特集「地域貢献・課外活動紹介」
■ くらしサイエンス
■ 卒業生レポート
■ 基礎ゼミ活動・交流会報告
■ CAMPUS NEWS
■ NUHW SPORTS NEWS
■ 第16回伍桃祭（大学祭）案内
■ 大学院からのお知らせ

新潟医療福祉大学

特集

学びのフィールドを学外へ。

地域貢献・課外活動紹介

各学科での課外活動はもちろん、クラブ・サークル活動においても専門性を活かした活動を数多く実施し、より充実した教育・研究活動および地域貢献活動を行っています。

活動 あそびの日（健康スポーツ学科）

主体的な身体活動を通して、運動・スポーツ好きなこどもを育てる

スポーツの源流は「真剣にあそぶ」こと

バランスディスクのデコボコ道、平衡動作に加え、コースを選択する判断力を強化

運動能力が高かった昭和60年頃のこどもは、路地や空き地、野原で日が暮れるまで遊び、自らの力で基本運動技能を獲得していました。しかし、現代のこどもはそのような環境に恵まれず、親はこどもにスポーツ・運動の機会をつくろうと教室に入れますが、早期に専門技術取得を求められたり、過剰な勝利主義に巻き込まれたりと、スポーツの才能が開花する前に嫌いになってしまいます。スポーツの源流は「真剣にあそぶ」こと。本気でスポーツで勝負する時のために、こどもには本気で遊ぶ場が必要です。子を持つ親としては、正しい知識や理念持ったスポーツ教室を選びたいものです。

学生はこどもを楽しく先導するプレイリーダー

学生リーダーの合図で集まり、説明を聞き、集団で体を使ったチームジャンケン

私たちが運営する「あそびの日」は、小学生や幼児を対象にスポーツや運動を好きになる場、また、もう一度好きになる場を提供しています。参加する学生は、こどもを楽しく先導するプレイリーダーの役割を担い、こどもの心身の発達を肌で感じ貴重な学びを得ています。日本が目指す「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」のためには、「体を動かすことが好きなこどもの育成」が重要なのです。

学生のコメント 健康スポーツ学科 4年 森山 慶生

私は、ゼミ活動で幼児への体育指導方法を学習しています。特に投動作の指導では、野球経験をもとに上半身だけの投球から下半身が先導する投動作を指導し、こどもの発達を体感できました。また、幼児期は「見て覚えること」と「楽しく繰り返すこと」が重要だと学びました。

活動 空飛ぶ車いすサークル（義肢装具自立支援学科）

「Flying Wheelchair Supporters」世界へ飛ぶ!!

活動の場は国を越える

空飛ぶ車いすサークル（Flying Wheelchair Supporters：以下FWS）は、一般の家庭や病院、施設等で使用されなくなった車椅子を回収・修理・整備し、東北の被災地や東南アジアをはじめとする発展途上国に届ける活動を行っています。具体的な活動として、学内で車椅子の修理や姿勢に関する勉強会を定期的に開催し、近況活動報告や車椅子とシーティングに関する知識、技術について学んでいます。学外では、国内外で開催される車椅子修理会への参加や、車椅子整備のために県内の福祉施設を訪問しています。さらに、昨年度は5月に被災地である宮城県と岩手県、8月にはタイ王国、12月には韓国を車椅子の修理活動のため訪問しました。

他の団体にはない、本学だからこそできること

このボランティアに参加している学校は、工業系の高校や大学が多いため車いす修理を目的とした活動が主になっていますが、本学のFWSでは、義肢装具士を目指す者として、修理に加えて車椅子の適合や使用法の伝達、使用環境の改善も含めた目的で学び、活動を行っています。今後は、他の団体にはない義肢装具自立支援学科の特徴を、活動の中でさらに発揮していけるように工夫をしていきたいと考えています。

学生のコメント 義肢装具自立支援学科 3年 夏井 貴人

私は、昨年の夏にタイ王国で車いすの修理会を開催しました。百数台の車いすの修理、フィッティングや車いす使用法の講習会を行う中で、現地では、知識や技術の他に工具が足りないこともありました。その中で、私は臨機応変に考えて行動することが身についたと思います。

活動　ユニバーサルスポーツへのボランティア（視機能科学科）

グランドソフトボール大会のサポートを通じて

全盲者と弱視者のチームで繰り広げられるスポーツ

視覚障害者の体力向上とスポーツの振興を図ることを目的として、平成28年5月15日（日）に新潟市内で開催された「第43回北信越グランドソフトボール大会」。福井、石川、富山、長野、新潟の5県から集まった選手が熱戦を繰り広げ、本学科の学生も、選手誘導やグラウンド整備など大会を支えるサポーターとして活躍しました。グランドソフトボールは、ソフトボールのルールを基本として、全盲者と弱視者のチームで繰り広げられます。ハンドボール位の大きさの球を地面に転がらせて、それをバットで打ちますが、音を頼りに競技することになりますので、静かに闘志が燃え上がる独特の雰囲気のある競技です。

医療従事者として必要な力を養う

視機能科学科では、開学以来、多くの学生が様々な障害者スポーツをサポートし、さらに視覚に障害をもつ方々の輪の中に入り、ユニバーサルスポーツを実践してきました。このような支援活動は、医療職に必要とされるコミュニケーション能力の向上、そして視機能科学科が目指す3つの眼（優しい眼・温かい眼・鋭い眼）の育成のために実践力を磨く絶好の活動となっています。

学生のコメント　視機能科学科 1年生　岡部 萌

初めて視覚に障害をもつ方のスポーツに参加しました。これまで私はこのような競技の存在すら知らなかったため、とても貴重な経験でした。選手の皆さんが、障害をもちながらも楽しそうにプレーをしている姿に感動しました。今回のボランティアに参加して本当によかったです。

活動　リボンムーブメント新潟（臨床技術学科）

増え続ける子宮頸部がん ～もっと知ってほしい子宮のこと、自分のこと～

女子大生の検診率向上を目指す

リボンムーブメント新潟は、2013年臨床技術学科の学生を中心に発足しました。“子宮頸部がん”は、子宮の入口にできるがんで、HPVというウィルスに感染することが原因です。国は、子宮頸部がんの検診開始年齢を20歳とし、若者に広く検診を呼びかけていますが、受診率が上がっていないのが現状です。リボンムーブメント新潟は、子宮頸部がんのこと、検診によって早期発見が100%可能なことを女子大生に訴える啓発活動を行っています。

啓発活動は学生が自主的に企画

検診受診率向上のため、講演会や出前講義のほか、検診車を大学に呼び検診を行うなど、活動は学生の自由な発想で自主的に行われます。これまでの活動のいくつかをご紹介します。

啓発冊子の作成

取材、漫画、文章、デザインをすべてサークルの学生が手掛けた啓発冊子。新潟県のすべての大学と専門学校、そして、新発田市の成人式で配布されました。

七夕ガールズアクション

浴衣を着て街頭に立ち、道行く人に、「大切な人へのメッセージ」を短冊に書いてもらい、笹に飾って展示するイベントです。浴衣姿の学生たちはとても可憐で、人々の注目を集めていました。

学生のコメント　臨床技術学科 2年　柳　彩加

リボンムーブメント新潟は、子宮頸がん検診啓発活動を行っています。この活動により検診率を上げるための活動を推進する行動力や当事者意識を得ることができました。簡単に検診率を上げることは困難ですが、メンバーと力を合わせて活動しています。皆さんもぜひ検診を受けてください。

地域包括ケアシステム

社会福祉学科 助教　白野 絹子

「尊き命の質」を住み慣れた地域で支え合う

「地域包括ケアシステム」とは？

「地域包括ケアシステム」とは、高齢者の尊厳の保持と自立生活支援を目的とし、重度な介護が必要になっても可能な限り、住み慣れた自宅や地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるように、「住まい・医療・介護・予防・生活支援」の5つのサービスを、一体的に受けられる支援体制のことです。戦後の日本を支えた団塊の世代の方々が75歳以上となる2025年を目途に、現在、地域の主体性を尊重し、その地域の特性に基づいたケアシステムの構築が進められています。この地域包括ケアシステムの実現に向けた中核的な機関として、市町村で設置しているのが「地域包括支援センター」です。

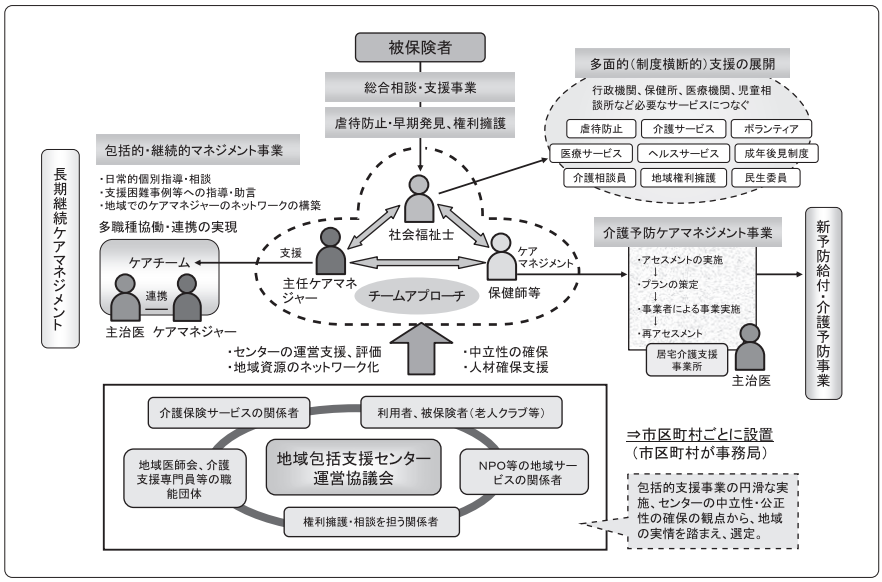
「地域包括支援センター」の取り組みについて

「地域包括支援センター」では、住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行い、保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的としています。そのため、おおむね30分以内に必要なサービスが提供されるよう、日常生活圏域（具体的には中学校区）を単位に配置され、新潟県では120箇所あまり、新潟市では27箇所（2016年2月現在）が設置されています。主な業務は、介護予防支援及び包括的支援事業（①介護予防ケアマネジメント業務、②総合相談支援業務、③権利擁護業務、④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務）であり、円滑な事業遂行のための制度横断的な連携ネットワークの構築です。このセンターには、支援の専門職員として、主任ケアマネージャー、保健師、そして社会福祉士が配置されています。

地域包括ケアシステムに果たす本学の役割について

本学は、地域社会で保健・医療・福祉・スポーツの向上を目指すQOLサポーターを育成することを目指した総合大学であることから、各専門学部の利点を活かした特色ある連携教育を展開しています。校歌には、「学べ、尊き命の質」、「目指せ、気高き命の質」、「守れ、豊かな命の質」と、ケアを必要とする人々が、如何なる状況下にあっても「命の質」のサポーターとなることをうたい、そして、各専門職のサポーターとして、人としての尊厳を守り、慈しむことを忘れず、お互いに手を差し伸べ、支え合う精神を広狭のある5つの輪として校章に託しています。本学でこのような尊き「命の質」と、サポーターとしての精神を学んだ学生が、主任ケアマネージャー、保健師、そして社会福祉士という地域包括ケアに携わる専門職となり、さらに多くの保健・医療・福祉・スポーツのQOLサポーターと手を携え、最期まで住み慣れた地域で、一人ひとりの「命の質」を尊び、支え合うために活躍しています。

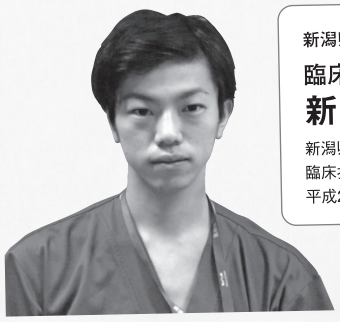
■地域包括支援センター（地域包括ケアシステム）のイメージ



出典／厚生労働省：地域包括支援センターの手引き

卒業生レポート FileNo 01

それぞれの施設に応じた臨床工学技士の在り方



新潟県立がんセンター新潟病院
臨床工学技士
新井田 健斗さん
新潟県 巻高校出身
臨床技術学科
平成27年3月卒業

▶ 現在の仕事の内容について教えてください

私は現在、新潟市内にある県立病院で臨床工学技士として勤務しています。臨床工学技士というと、透析や人工心肺の操作を思い浮かべる人が多いと思いますが、当院ではどちらも行っていません。主な業務は手術室業務で、機械の操作・管理やポンプ・呼吸器などの機器管理です。初めは物足りなさを感じていましたが、実際にトラブルなどを経験してみると、いかに医療機関において機器の安全性や管理が大切かを実感しました。今では、様々な経験を重ねる度に知識が増え、自分自身の成長を感じています。これからも様々なことに挑戦して多くの知識を身につけたいです。

Alumni Report

▶ 本学を一言で表すとしたら…?

「 輪 」

実際に働くようになってから、大学時代の“繋がり”をすごく感じるようになりました。連携基礎ゼミで他学科の学生と接することができた経験が、現在の仕事で他の専門職と接する際に活かされていると実感しています。また、同じ学科の中でも臨床検査技師になった友人には仕事で疑問に思ったことを教えてもらったりしていますし、臨床工学技士になった友人とは情報交換して常に刺激をもらっています。卒業後、先生に会いに大学を訪ねる度に大学の人すべてが一つの輪のようになって繋がっていると強く感じます。

▶ 臨床工学技士を目指す人へメッセージ

臨床工学技士は、機械などに興味のある人に向いている職種だと思います。機械の種類や数・性能の向上などは日進月歩です。新しい機械に対応した知識を身につけることは、とてもワクワクしますし、それを他の医療従事者に勉強会等で説明できたときは大きな喜びを感じます。入職前も入職後も勉強の日々ですが、やりがいを感じる時が何度も訪れます。みなさんも、将来の医療を支える臨床工学技士を目指して頑張ってください。

卒業生レポート FileNo 02

患者様との関わりを大切に

独立行政法人国立病院機構
西新潟中央病院
看護師
齋藤 汐里さん
新潟県 江南高校出身
看護学科
平成27年3月卒業

▶ 現在の仕事の内容について教えてください

私は、本学の看護学科を卒業後、西新潟中央病院に勤務しています。病棟では、神経内科疾患患者様への看護を行っています。患者様が安全・安心に入院生活を送ることができるよう、また患者様の小さな変化に気づくことができるよう、日々勉強の毎日です。

私は、小さな頃から人の役に立つ仕事がしたいと思っていたため、看護師という職業を選択しました。看護師の仕事は、キツイ・厳しいという印象を持たれがちですが、仕事をしている中で患者様の笑顔が見られると、とてもやりがいのある仕事だと感じます。これからも患者様との関わりを大切にし、自分のキャリアアップのため、日々努力していきたいと思います。

Alumni Report

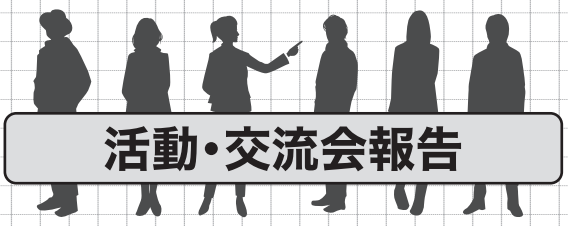
▶ 本学での学びは、現在の仕事にどのように活かされていますか?

1年生から病院での実習があるため、多くの患者様と関わる機会があります。受け持った患者様の疾患に関して深く学べることも実習の一つの魅力ですが、様々な年代の患者様と関わることで、コミュニケーション力が身についたと思います。現在勤務している病棟に入院されている患者様の年代も幅広いため、患者様の年代に合った会話を心掛けています。

▶ これから看護師を目指す高校生や在学生へメッセージをお願いします。

本学科は、看護師の資格だけでなく、保健師や助産師、養護教諭など様々な資格を取得することのできる学科です。看護を基礎として学んでいく中で、入学当初に思い描いていた考えや、やりたいことが変わっていくかもしれません。そんな時、本学の先生方は、一人ひとりの考えを尊重し、親身になってバックアップしてくださいます。信頼できる先生方がいるのも本学の魅力ですので、自分のやりたいことに積極的にチャレンジしてください。

基礎ゼミ

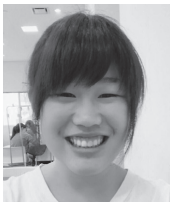


活動・交流会報告

基礎ゼミは、1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7～8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。また、ディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。

01 友達づくりのきっかけ

理学療法学科 1年　小林 聖奈



理学療法学科の基礎ゼミでは、ゼミ対抗のスポーツ大会やバーベキューを行ったほか、私が所属する江玉ゼミでは、海に行ったり先輩方から大学生活の過ごし方について教えていただいたりしました。

理学療法学科には、たくさんの学生が所属しているので、入学当初は知らない人も多くいましたし、基礎ゼミに対して堅苦しいイメージもありました。しかし、基礎ゼミでの活動を通して、たくさんの人と関わったり協力したりする中で、4年間共に理学療法士を目指す友達を作ることができました。理学療法士は、人とのコミュニケーションが大切な職業ですが、コミュニケーション力を高めるきっかけや友達作りをするきっかけを与えてくれるのが基礎ゼミだと思いました。

02 仲間と共に作業療法士を目指す

作業療法学科 1年　小林 昌泰

私たちの基礎ゼミでは、「作業療法学科の学生はどんな一日を送っているのか」、「どんな授業を受けているのか」など、これから作業療法学科に進学しようと考えている高校生のために、オープンキャンパスで配るパンフレットを作成しました。ゼミでは、学生同士や先生と意見を交換し合う機会も多くあるほか、一緒にご飯を食べに行くこともあり、ゼミの仲間とはすぐに仲良くなれました。

また、7月にはゼミ対抗のドッヂボール大会を行いました。普段あまり話さない学生と交流できたり、先生と話すことができたりと、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。最初は友人ができないのではないかという不安もありましたが、基礎ゼミは友人を作る大きなきっかけになりました。これからの4年間は、仲間たちと切磋琢磨し、立派な作業療法士になるために頑張ります!

01 理学療法学科
夢を語る作文発表

02 作業療法学科
ゼミ対抗ドッヂボール大会開催!

03 職業について深く知るチャンス

言語聴覚学科 1年　笠原 舞結

私たちのゼミでは、言語聴覚士の先生方にインタビューして、その内容をまとめるという研究をしました。インタビューを通して、言語聴覚士の歴史や、先生方が言語聴覚士としてどのような気持ちで働いていたのかを知ることができました。また、本学科には様々な専門分野の先生方がいらっしゃるので、多面的な視点から言語聴覚士について知ることができました。そして、すべての先生が言語聴覚士の仕事に大きなやりがいを感じていることに感動しました。

初めは、知らないゼミのメンバーと一つのものを作り上げていくことに不安がありましたが、みんなが協力的で良い雰囲気の中、活動することができてとても楽しかったです。そして、何より自分自身が目指す言語聴覚士という職業について、仲間と考えることができて良かったです。

04 先輩との交流を通して

義肢装具自立支援学科 1年　小松 郁也

義肢装具自立支援学科では、ソフトバレーボールやバーベキューなど、ゼミごとに先輩方が企画してくれた交流会を行いました。ソフトバレーボールでは、学年チーム、全学年混合チームなどで試合を行い、学科全員で楽しみました。初めは先輩たちとうまく話ができませんでしたが、スポーツを通して緊張もほぐれ、楽しく交流することができました。

バーベキューでは、先輩たちと共に私たち1年生も協力して準備をしました。先輩たちは、学生生活や勉強の仕方、ゼミ活動、一人暮らしなど、まだ学生生活について良く分からず、不安な気持ちでいる私たちに優しくアドバイスをしてくれました。

来年は、私たちが新入生を歓迎する番です。少しでも後輩の不安を解消してあげられるようなアドバイスができる先輩になりたいです。

05 ゼミ活動を通して得たもの

臨床技術学科 1年　五十嵐 隆介

基礎ゼミでは、交流を深めることはもちろん、ゼミごとにテーマを決めて調べ学習を行ったり、各ゼミが集まってスポーツ大会やバーベキュー大会を開催したりすることで、将来チーム医療に必要なコミュニケーション力や協調性を高めることができます。私は、どちらかというと消極的な性格でしたが、ゼミの仲間や他のゼミの学生、先生方と関わる中で、以前よりもより積極的に物事に取り組んだり、たくさんの人と関わったりするようになりました。

今後の学生生活では、ゼミの活動を通して身につけた積極性を活かして、もっと多くの人と交流を深め、コミュニケーション力と協調性を磨いていきたいです。そして、2年次に行う連携基礎ゼミや3年次に行う病院実習を、医療従事者を目指す糧となるような有意義なものにしたいです。

03 言語聴覚学科
言語聴覚士の魅力発見♪

04 義肢装具自立支援学科
楽しいバーベキューの1コマ

05 臨床技術学科
みんなで協力してグループワーク

06 もしも第3の眼があったら…

視機能科学科 1年　髙橋 塁

私たちの眼は2つあることによって、見える範囲をより広く保ったり、モノを立体的に見たりと様々なメリットがあります。普段、私たちは2つの眼で生活をしていますが、実は私たちの先祖には“第3の眼”があり、今は体の一部の松果体として残っているという説があります。もし、今でもその“第3の眼”があったとしたら、人は何を望むだろう…。そんな疑問に対して私たちのゼミではアンケート調査をしました。

その結果、多くの人が「後ろまで見えるようになったらいい」という理由で、“第3の眼”が後頭部にあることを望んでいました。さらに、“第3の眼”に特殊機能があったとしたらカメラ機能やズーム機能が欲しいなど、様々な意見を知ることができました。

“第3の眼”は実際には存在しないものですが、今回のゼミ活動を通じて、今の私たちの視覚には何が不足しているのかを知ることができました。また、少しでも気になったら、まずは調べてみることが大切だということを学びました。

07 学科のみんなをもっと知る!

健康栄養学科 1年　田中 智美

5月18日（水）、健康栄養学科では「お弁当の日」という交流会がありました。お弁当の日では、一人ひとりが1品ずつ手作りのおかずを持ち寄り、バイキング形式で食べました。各自が、作るおかずを決めることから、食材の買い出しや調理まで、すべてを自分自身で行いました。普段、友達が作った料理を食べる機会は少ないので、とても新鮮で自然と料理に関する会話も広がっていきました。また、お弁当を食べた後は、各ゼミがチームとなって箸を使った豆移しゲームや野菜の重量を当てるゲーム、フルーツバスケットを行いました。フルーツバスケットでは、ゲームを通して自己紹介をすることで、これまでわからなかった一人ひとりの個性を知ることができました。これを機に、学生同士だけでなく先生との絆も深まりました。

交流会を通して、大学生活の4年間をこのメンバーで楽しく過ごし、管理栄養士という目標に向かって頑張っていきたいと思いました。

08 スポーツで笑顔に

健康スポーツ学科 1年　藤枝 亜弓

健康スポーツ学科の学生・教員交流会では、基礎ゼミ対抗でソフトバレーボールを行いました。交流会までに何度か基礎ゼミで集まったものの、まだまだ緊張している人が多く、私もその中の一人でした。しかし、試合が始まると、健康スポーツ学科ならではの“スポーツ魂”に火が付き、みんな必死になって戦いました。それと同時にみんなの顔からたくさんの笑みがこぼれました。

私は、学科内でも数少ない茨城県の出身で、新潟の土地や新たな友達に馴染めるかとても不安でした。しかし、交流会を通して基礎ゼミのメンバーとさらに仲を深めることができ、多くの人と関わり楽しい時間を過ごすことができました。

私たち健康スポーツ学科は、将来スポーツを通して多くの人を笑顔にするために学んでいます。それを実現するために、これから多くの専門科目を学び、将来に繋げることができるよう充実した学生生活を送りたいです。

06 視機能科学科
全体発表会の様子

07 健康栄養学科
お弁当の日、早く食べたい♪

08 健康スポーツ学科
ソフトバレーボール大会の様子

09 基礎ゼミを通して得たこと

看護学科 1年　渡辺 智美

私たちのゼミでは、一人ひとりが自分の好きなこと、興味があることについてテーマを出し合い、その中から自分が調べたいことを決め、レポートにまとめて発表を行いました。ゼミ活動を進める中で、それぞれの意見を出し合いながら話し合うことで、より良いコミュニケーションを取ることができました。また、ゼミ担当の先生の研究室で、たこ焼きパーティーやホットケーキ・焼きそば作りを行い、学生同士や先生との交流を深めました。

初めは、今まで話したことのない人と関わることに緊張していましたが、毎回活動する度にゼミのメンバーと仲良くなれたり、担当の先生と気軽に話をすることができたりと、より一層仲を深めることができました。今後も人との関わりや出会いを大切にし、大学生活を充実したものにしていきたいです。

10 新潟水俣病から学んだこと

社会福祉学科 1年　薄 結香

私たちの基礎ゼミでは、新潟水俣病を学んでの想いを動画で表現するという活動を行いました。新潟水俣病と関わりが深い場所をめぐり、そこで撮った写真と各自の感想を併せて動画にまとめました。二つのゼミが合同で行ったのですが、一つのゼミで行うよりもたくさんの意見が集まり、より良い動画が作れたと思います。

私は、福島県出身で新潟水俣病については教科書に載っている程度の知識しかなかったのですが、今回のゼミ活動でどれだけの人が被害に遭ったのか、どんな被害だったのか、原因は何だったのかを学びました。その中で、語り部さんの話を聞く機会があり、話を聞いて自分が考えていたものより被害は遥かに大きかったのだと感じました。話を聞けただけでも、このゼミで活動した甲斐があったと思います。

作成した動画はオープンキャンパスで公開します。わずか4分の動画ですが、見た方が新潟水俣病に関心を持ってもらえたら嬉しいです。

11 企画運営の難しさと達成感

医療情報管理学科 1年　板垣 匠

医療情報管理学科では、各ゼミから選出された14名の実行委員が中心となり交流会の企画・運営を行いました。交流会を開催するにあたって、内容をどうするか、景品を何にするかなど、多くの課題が出てきました。交流会は、みんなが楽しめなくては意味がないと考えていたので、部活で有利になるスポーツは選択肢から外し、最終的にドッヂボールをすることに決めました。

内容を決めた後、男女間の力の差を考慮した調整など、細かいルールについて決めました。それを公表できたのは交流会の目前だったので、しっかりとした事前の説明もできず、当日の運営がうまくいくか心配でした。しかし、いざ試合が始まるとみんな楽しく協力しながらやっていたので、大きな達成感がありました。

今回の交流会での活動を通じて、企画・運営することの難しさに気づきました。この経験を今後の学生生活に活かしていきたいです。

09 看護学科
研究室でホットケーキパーティー♪

10 社会福祉学科
新潟水俣病と関わりの深い場所を訪ねました

11 医療情報管理学科
ドッヂボール大会　全員で記念撮影

旬なニュースをお届け！

CAMPUS NEWS

第16回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

今年度の学術集会は、大会テーマを「東京オリンピック・パラリンピックに向けた保健・医療・福祉・スポーツの連携のあり方」とし、特別講演やシンポジウムなどのプログラムを用意しています。参加は無料で、事前申込みも必要ありません。多数の方々のご来場をお待ちしています。

日　時：2016年10月29日（土）
会　場：新潟医療福祉大学
大会長：西原康行
（新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 学科長）

●特別講演
「【夢の実現】オリンピック、苦難と栄光、そしてこれから」
講師：宇津木妙子
（女子ソフトボール元日本代表選手および元日本代表監督、世界ソフトボール連盟理事、NPO法人ソフトボール・ドリーム理事長）

●シンポジウム
「リオから東京へ　業種間連携における課題と展望」
座長：西原康行(新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科)

視覚障害学習支援 ～夏の会～ 開催

7月17日（日）、視機能科学科では、視覚障害学習支援 ～夏の会～ を開催しました。この会は、新潟県内の視覚に障害をもつお子さんの充実した学校生活を支援することを目的として始めたもので、今年で3年目です。今回は当事者、保護者、弱視学級の先生、盲学校の先生、学生サポーターが、総勢25名が視機能科学科実習室に集いました。

3名の学生サポーターが、初めてお子さんの視力を測定しました。初めは緊張していましたが、すぐに和やかな雰囲気になり、優しく言葉掛けをしながら検査を進めました。

視力検査の後は、光るクレヨンを使って、子どもたちと話しながら絵を描きました。ブラックライトの部屋へ描いた絵を持っていくと絵が浮かび上がり、子どもたちにとって楽しいお絵描き体験となりました。

朝ごはん、手早く、おいしく、簡単に 略してTOK料理教室 開催

7月11日（月）に、健康スポーツ学科の佐藤晶子ゼミでは、健康スポーツ学科1年生を対象とした「朝ごはん、手早く、おいしく、簡単に、略してTOK料理教室」を開催しました。学生を対象とした料理教室は、今回が初めてとなります。

本企画の目的は、一人暮らしを始めたばかりの学生アスリートに、簡単に作れる朝食の方法を提案することです。朝の時間が無い中で手早く作る調理の工夫の仕方と、朝食で摂取すべき食事量を伝え、今後の食生活に活かしてもらうことをねらいとしました。

今後も、幅広い世代の方々に料理教室に参加していただけるようなイベントを企画していきたいと思います。

「基本工作実習I」「材料力学」授業公開に7名の高校生が参加

7月18日（月）、7月30日（土）の2日間、本学第5研究棟にて義肢装具自立支援学科の授業公開が行われました。これは高校生を対象とした通常の実習授業に参加してもらう企画です。

「基本工作実習I」では、義足の組み立て方と調整方法を体験する「義肢コース」と、下肢装具の組み立てと仕上げ作業を体験する「装具コース」に分かれて実施されました。どちらも少人数制で行われ、6名の高校生が参加しました。

「材料力学」では、装着型動作支援ロボットHALを用いて、理論と構造の講義が実際の体験を交えながら行われ、1名の高校生が参加しました。

今後もリアルな大学の授業を体験できる企画を実施してまいります。

「福祉人材求人説明会」開催

6月25日（土）に、医療・福祉・介護等の現場で福祉の仕事を目指す学生を対象とした「福祉人材求人説明会」を開催しました。当日は、新潟県及び隣接県から44の社会福祉法人と医療法人が相談ブースを設け、社会福祉学科の3・4年生約200名が参加しました。

求人説明会は、福祉人材の確保と育成を目的にして、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会 福祉人材センターの協力を得て開催され、3年生を対象としてこの時期に開催するのは初めてです。4年生は来年4月の就職に向けて求人内容について、3年生は医療・福祉・介護等の現場に求められる人材像等について、熱心に相談をしていました。

新潟医療福祉大学のスポーツが熱い！！

NUHW SPORTS NEWS

陸上競技部

本学初の学生チャンピオン＆日本選手権で3種目入賞の快挙！

全国トップの舞台へ！

6月24日（金）～26日（日）にパロマ瑞穂スタジアムにて、第100回日本陸上競技選手権大会が開催されました。短距離では前山美優選手（健康スポーツ学科3年）が女子100m、200mに出場し、決勝は100m 4位（11秒88）、200m 7位（24秒26）と、本学初の短距離入賞および2種目入賞を果たしました。前山選手は、先に行われた日本学生個人選手権で本学初の学生チャンピオンにも輝きました。

女子400mでは、椎谷佳奈子選手（健康スポーツ学科2年）が初出場ながら堂々とした走りで55秒50の好タイムを記録しました。また、男子走高跳に初出場した長谷川直人選手（健康スポーツ学科2年）が、2m20cmの自己記録で6位に入賞し、本学初の男子選手の入賞となりました。

多くの方々に支えられ、日本選手権という最高の舞台で良い結果を残すことができました。今後とも陸上競技部へのご声援をよろしくお願いします。

前山 美優 選手のコメント

私は、第100回日本陸上競技選手権大会にて女子100mと200mに出場し、2種目とも決勝の舞台で走ることができました。目標としていた表彰台には届きませんでしたが、今回の結果は自分の弱点を見つめ直すチャンスだと思っています。また、第100回という記念すべき大会に出場することができ、さらにリオデジャネイロオリンピックの選考も兼ねた独特の緊張感や雰囲気を味わえたことは最高の経験となりました。

今後も素晴らしい環境やチームメイト、熱心な先生方のもとで精進します。多くのご声援、ありがとうございました。

硬式野球部

関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦 2位！

創部4年で大躍進！

4月2日（土）～5月16日（月）にかけて、関甲新学生野球連盟春季リーグ戦1部が開催され、本学硬式野球部は2位という結果を収めました。

リーグ戦では、エース左腕の笠原祥太郎選手を中心とした投手陣を武器に、第1節の山梨学院大学戦、次節の平成国際大学戦を連勝で飾り、とても良いスタートを切ることができました。優勝に向けての大一番となった上武大学戦でも、勢いそのままに初戦に勝利し、優勝まであと一歩のところまで来ることができました。惜しくも優勝は逃してしまいましたが、最終節の白鷗大学戦でも勝ち点を挙げ、野球部最高成績の2位でリーグ戦を終えることができました。

そして、春季リーグのベストナインとして、ピッチャー部門で笠原祥太郎選手（健康スポーツ学科4年）が、ショート部門で熱田隆介選手（健康スポーツ学科2年）が選出されるなど、素晴らしいシーズンになりました。

応援してくださる方々の期待に応えられるよう、より一層努力を重ねていきたいと思います。これからも硬式野球部の応援を宜しくお願いします。

佐藤 和也 監督のコメント

野球部創部4年目にしての2位は本当に素晴らしく、選手諸君の日頃の精進の賜物に他なりません。勝ち点4の内容を見ても苦しい接戦の連続で、優勝への執念を感じる戦いぶりでした。この経験を必ずや秋の戦いに活かし、今度こそ優勝を果たしたいと思います！

今後とも応援のほどお願い申し上げます。

笠原 祥太郎 選手のコメント

今回、私がベストナインを取ることができたのは、関甲新1部優勝という目標を達成しようという気持ちが強かったからだと思います。この春季リーグで大半の4年生が引退してしまうので絶対に優勝するという思いで一戦一戦全力で投げました。その結果、惜しくも優勝はできませんでしたが、ベストナインに選出していただくことができました。

学 友 会

第16回伍桃祭（大学祭）案内

10/9（日）
10（月・祝）

今年のテーマ　「千祭一遇」

新潟医療福祉大学は今年の春に16期生を迎え、それに合わせて本学の大学祭である伍桃祭も今年で16回目を迎えることができます。保健・医療・福祉・スポーツの多彩な学科からなる本学ですが、年を重ねるごとにその連携が深まり、質の高い総合大学として進化しています。

そこで、16回目となる今年の伍桃祭は、「千祭一遇」というテーマで開催します。このテーマは、「千載一遇」という言葉の造語であり、『今年でしか作り上げられない貴重で最高の大学祭にしよう！』という想いを込め決定しました。

当日は学科の枠を超えて、また地域のお子様からお年寄りの方々まで世代を超えて、ご来場いただいた皆様が楽しめるような様々なプログラムを準備しております。

今年の伍桃祭では、毎年恒例の『模擬店』のほか、クラブ&サークルによるバラエティ豊かなパフォーマンスを行います。迫力のある渾身のパフォーマンスをぜひご覧ください。また、例年にはない体験型のプログラムも多数ご用意しておりますので、ぜひご参加ください！

最後になりますが、伍桃祭は協賛をいただいた企業様やお越しいただく皆さまのおかげで成り立っています。今年も多くのご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

10月9日（日）・10日（月・祝）の2日間、新潟医療福祉大学にて、たくさんの方のお越しを心からお待ちしております。

第16回伍桃祭実行委員兼学友会副会長　早坂 陽太

イベント案内（予定）

- お笑い芸人による漫才ライブ
- アーティストによるライブ
- クラブ&サークルによる発表
- 模擬店
- 大学を巡るスタンプラリー
- 同窓会企画 子ども向けスポーツイベント

など

このほかにも
交流イベントが満載です。
ぜひお越しください。

大 学 院

国際協力機構（JICA）×新潟医療福祉大学大学院連携 青年海外協力隊等プログラム

JICAボランティアに参加しながら修士の学位取得が可能！

青年海外協力隊等JICAボランティアとして活動しながら同時に修士の学位取得を目指す、画期的なプログラムです。派遣国での活動中も教員の指導を受けることができ、任地での活動が大学院の単位の一部として認められます。国際協力現場での実践を通して、国際保健協力に関わる人材としての資質・能力を高めることを目的としています（派遣前、派遣中どちらの入学も可能です）。

平成24年の開設以来、すでに12人の隊員が本プログラムに入学されました。

大学院冬のオープンキャンパスのご案内

12月3日（土） 10:00～

（昨年開催例）
◎ 図書館司書による文献検索セミナー
◎ 大学院概要説明会・個別相談など

※セミナーの詳細情報については大学院ホームページ（http://nuhw.ac.jp/grad/）でご案内いたします。
また、お問い合わせは大学院入試事務室（E-mail: grnyuusi@nuhw.ac.jp）までお願いいたします。

新潟医療福祉大学

〒950-3198　新潟市北区島見町1398番地
TEL 025-257-4455㈹　FAX 025-257-4456
URL　http://www.nuhw.ac.jp/
スマートフォンサイト　http://www.nuhw.ac.jp/sp/
【入試事務室】TEL 025-257-4459
E-mail　nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっています。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する（サポート）人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。